



## 【元気なお寺づくり講座 アフターミーティング】

過日、台風が十五号十九号と立て続けにやってきた。土地勘のない私は身の処し方が判らぬまま、別院にて独り身を細めじっと通過するのを待った。別院本堂は下り棟に少々の被害が生じたが、別院はともかく、次々と明らかになつてくる広域災害、被害の拡大に心が痛み、被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。

今年も別院の報恩講を三日間勤めさせていただき、「恭敬讚嘆の心は必ず慙愧懺悔を伴う」このことを憶念しながらの儀式・所作は、私にとつて貴重な経験であることは勿論、とにかく気分を含めて重たく達成感と言うより、まだまだ終わりのない通過点と言つた方が的確であつて、報恩の誠を尽くす聲明・儀式・莊嚴も、また、私どものいかなる歩みをもつしても、到達するものではなく、まだまだ充足感の域にないことを痛感させられている。

「報恩講の一日、今日一日の精神をもつて三六五日を生きると言うのが、それが僧伽です。自分が自分になつた背

本  
願  
力

〒234-0051

横浜市港南区日野一一一一八

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院

安田理深

（〇四五）八四一一三四三四  
FAXTEL  
(http://www.yokohama-oootani.com)

雜感七  
輪番 坂田 智亮

景を知る。それが恩を知るという意味でしょうね」

報恩講は、自ら日ごろの心を吟味して存在自身の深い願いに起たしめられ、本願念佛に生きてきた人々に出遇い直し遠く宿縁を慶び、生きることの意味を回復していく。そして、毎年新たな課題を頂戴する仏恩報謝の大切な御仏事であつて通過儀礼ではないことは言を俟たない。

蓮如様がご注意くださつてゐる「報恩講の内において信心決定ありて、我人一同に、往生極樂の本意をとげたもう」この「我人一同」この言葉も見逃してはなるまい。

別院は、地方の中心道場としての体裁を整えて、崇敬区域、僧俗一体となつた願われるべき報恩講を厳修していくと、いう課題もあつて、これから模索しつつ検討すべき余地も残されていると思われるのをご意見を賜りたい。

「心を新たに平和で希望に満ち溢れ誇りある日本の輝かしい未来、人々が美しい心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ時代を作り上げていく為最善の努力」これは天皇即位の儀で首相より発せられた言葉である。スッキリすることは、よく似た表現であるがその意味は全く異なつていて。整理されないまま煩つてゐることが解消して将来の展望が開け充実感幸福感を覚えることはスッキリで、ハツキリはそれぞれの思惑とは関係なしに物事の道理・真理を正確に理解、展望することであると思う。教化センターではこのところ原発・放射線被爆、また、ハンセン病問題などの課題に目を向けている。豊かさを追い求め高度成長をひた走つた結果、その豊かさのために一部の人々が犠牲になるという構造が常に避けられない現実の中で、その犠牲に耐えながら生きている人たちの眼差しを意識して決して忘

れることは大切なことであり、真宗を名乗るもの  
の必須条件であると思える。何もかもが、この時代  
スッキリすることはあるとしても、ハツキリするこ  
とは少なく稀で難しい。  
普く諸々の人と共に安樂国に往生せん。

### 元気なお寺づくり講座

アフターミーティング（九月三日）  
講師 竹原了珠氏（企画調整局参事）

昨年、神奈川教化センター「元気なお寺づくり講座」（全五回）が実施され、六カ寺のお寺が参加して、各寺院事に「寺業計画書」を作成しました。今回はアフターミーティング（一年後の集い）で、それぞれの寺業計画を振り返り、お互いの進捗を確かめ合い、次へとつなげる講座となりました。本山・企画調整局より、禿局長、竹原講師、事務担当小谷氏に来院いただき、まず始めに、輪番挨拶、禿局長挨拶、小谷氏よりオリエンテーションが行われました。その後、参加者も同じような状況があるのではないかという問い合わせが投げかけられた後、今日のワークに移りました。



→ 竹原了珠氏

最後に、竹原講師より「能登で子ども食堂を綿密に計画して実施し、最初はたくさんのお子もたちが集まつてきました。しかし、一年後には人が集まらなくなり、休止状態となりました。では、なぜこうなつてしまつたのか」というと、チェック（検証）の部分が抜けてしまい、アクション（行動）ばかりに目を向けてしまった結果である。

つまり、事業をやるにしても、チェックの部分を疎かにしてはいけないが、チェックを怠りがちになるので、今回のミーティングはチェックを中心に行なつたのである。」という総括の言葉を頂き、終了しました

（文責家本）

今年の六月末にハンセン病家族訴訟の判決が出て、注目を集めていますが、中心的な役割をしておられる徳田靖之弁護士に大分県よりお越しいただきました。徳田氏は、自身がハンセン病問題にかかわるようになつた経緯からお話をされ、本日のテーマとして①家族訴訟の意義を社会の責任という視点で明らかにすること②ハンセン病隔離政策の歴史から、ハンセン病に対する差別・偏見の現状を明らかにすること、この二点についてお話をいただきました。お話を内容は、TVや新聞などメディアから聞こえてこないようなお話をばかりでしたので、参加者からもいくつか質問があがりました。

最後に徳田氏は、「私たちは、家族訴訟から何を学ぶべきか」という大きな問い合わせを投げかけられました。一人ひとりが問い合わせるしかありません。

（文責家本）

### 特別公演会

（九月十一日）

講師 徳田靖之氏（弁護士）  
講題「ハンセン病問題と私たちの責任」

ここで、寺院を一つの班として、「寺業計画の現状とこれから」について話し合いました。話し合いの内容は、①取り組めたこと（できしたこと）②取り組んでわかつたこと（気づき・発見）③次にやることの三種類でした。僧侶と門徒がこの一年間のお寺の現状を振り返り、それを文章化しまとめることで、実施できたもの、途中のもの、準備段階のものがはつきりと可視化することができました。ワークの後は、各班事の振り返りシートをみんなで読んで回り、共有しました。各寺院の進捗状況から多くの刺激をいただくことになりました。

最後に、竹原講師より「能登で子ども食堂を綿密に計画して実施し、最初はたくさんのお子もたちが集まつてきました。しかし、一年後には人が集まらなくなり、休止状態となりました。では、なぜこうなつてしまつたのか」というと、チェック（検証）の部分が抜けてしまい、アクション（行動）ばかりに目を向けてしまった結果である。

つまり、事業をやるにしても、チェックの部分を疎かにしてはいけないが、チェックを怠りがちになるので、今回のミーティングはチェックを中心に行なつたのである。」という総括の言葉を頂き、終了しました

（文責家本）



→ 徳田靖之氏

# 【神奈川四ヶ組（横浜・川崎・三浦・湘南）のうごき】

## 「神奈川四ヶ組行事予定表」

横浜組門徒会総会（八月二十九日）  
講師 小林尚樹氏（東京宗務出張所）  
講題 「仏事をご縁として」

横浜組門徒会総会（八月二十九日）  
講師 小林尚樹氏（東京宗務出張所）  
講題「仏事をご縁として」

横浜組門徒会総会が開催され、二〇一八年度事業報告・決算、二〇一九年事業計画・予算が協議されました。その後、東京宗務出張所の小林尚樹氏による法話がありました。講題「仏事をご縁として、仏教の終活から問われてくること」として、①第四回・第五回エンディング産業展②仏事をつとめるということ③「法名」と「終活」、仏の教えに生きる④本山施策「帰敬式法座」⑤東京教区御遠忌テーマ「今、いのちがあるなたを生きていく・真のよりどころを求める・」の五つについてお話をいただきました。

あり、どのような意味があるのかを問い合わせました。また、仏事代行制度や葬儀社向けの研修プログラムの紹介を行ないました。つまり、仏事をつとめるということは、亡くなつていかれた方を諸仏として出遇うことであり、私たちが南無阿弥陀仏に出遇う場であります。」とお話をまとめられました。「終活」とは、どう死んでゆくかではなく、どう生きて往くのかということであり、仏の教えを聞き続けていくことであると思いまし  
た。  
(文責家本)



# 神奈川連合組子ども会 夏のつどい 反省会(十月一日)

# 神奈川連合組子ども会 夏のつどい 湘南組真福寺を会場 反省会（十月一日）

〔二〇二〇年寺子屋組〕

〔第一回〕

〔日時〕一月三日（月）午後一時、

〔講師〕佐賀枝夏文 師（大谷大学名誉教授）

〔会場〕西來寺（横須賀市不入斗町三一三八）

〔第二回〕

〔日時〕三月四日（水）午後一時、

〔講師〕狐野秀存 師（大谷專修学院長）

〔会場〕来福寺（三浦市南下浦町上宮田）

〔第三回〕

〔日時〕四月八日（水）午後一時、

〔講師〕渡邊浩昌 師（三重県西願寺前住職）

〔会場〕淨榮寺（横須賀市吉倉町一・三十）

【講師】 海法龍氏（横須賀市・長願寺住職）  
【テーマ】 人間とは何か—歎異抄に聞く  
【会場】 崎陽軒ビルヨコハマジヤスト  
一號館八階（横浜駅よりすぐ）  
【参加費】 一回千円

第四回	一月十一日	(土)
第五回	二月十五日	(土)
第六回	三月十四日	(土)
第七回	四月十八日	(土)
※全	程十四時より十六時まで	

『神奈川四ヶ組』  
【横浜親鸞講座 二〇一九】  
〔日時〕第三回 十二月十四日 (土) 全七回

— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 — 2019年11月～12月

～どなたもご自由にお参りください～

**第2回浜別サンガ（門徒交流会）**

**- 節談説教&交流会 -**

11月16日（土）午後2時～5時半

参加費1,000円（当日受付）

【節談説教】中村亜由美 師

（福岡県みやま市泰仙寺住職）

※節談説教とは、仏教の教えを聴衆に伝わりやすくするために、話す文句（説教）に抑揚（フシ）が付き、人びとの情念に訴えかけるように工夫されたものであります。また、講談や落語、浪曲のもとになったものともいわれています。千年の歴史ある伝統芸能をぜひお聞きください。

【交流会】別院内の研修室において、軽食を準備しておりますので、節談説教に続いてご参加ください。

**定例法話 午後1時30分より**

11月9日(土)横浜組 智廣寺 橋本 至 師

11月28日(木)別院 輪 番 坂田智亮 師

12月9日(月)横浜組 妙玄寺 池田理道 師

※12月28日の定例法話は休みです

**大掃除（同朋の会） 午前10時より**

12月18日（水）

年末の大掃除を行ないます。

汚れてもよい服装でお越し下さい。

皆様のご協力よろしくお願ひ致します。

おみがき会と同様に軽食を準備しています。

※11月18日の同朋の会は休みです

（家本）



今年は十月上旬まで気温が三十℃を超える日が続き、その後一気に気温が下がり体調を崩された方が多いのではないでしょうか。首都圏を通過した台風十五号・十九号は甚大な被害をもたらしました。別院では、本堂の瓦が飛び、雨樋（あまとゆ）が壊れる等、いくつか被害がありました。台風は避けては通れないですが、夏から秋へと季節の移り変わりでもあります。

（湘南組正恩寺）があり、団体参拝の寺院一ヶ寺報恩講が勤まり、今年は報恩講が勤めると今年も終わったような気になってしまった。私個人としては、大勢の方に参詣いただきまし

た。別院では、本堂の瓦が飛び、雨樋（あまとゆ）が壊れる等、いくつか被害がありました。台風は避けては通れないですが、夏から秋へと季節の移り変わりでもあります。

今年は十月上旬まで気温が三十℃を超える日が続き、その後一気に気温が下がり体調を崩された方が多いのではないでしょうか。首都圏を通過した台風十五号・十九号は甚大な被害をもたらしました。別院では、本堂の瓦が飛び、雨樋（あまとゆ）が壊れる等、いくつか被害がありました。台風は避けては通れないですが、夏から秋へと季節の移り変わりでもあります。

**編集後記**